

自 平成26年 4月 1日
至 平成27年 3月31日

事業報告及び附属明細書

平成26年度

亀井南冥と亀井学



筑前五ヶ浦廻船



1 事業報告

平成26年度の事業実施結果について、当初計画に基づき以下のとおり報告致します。

1) 展示

(1) [計画] 「観覧者にわかりやすく、親しみやすく」をテーマとした展示方法の見直しを推進する。

[結果] 亀井学について観覧者の理解を深めるため、亀井南冥・昭陽の父子二代によって完成された「論語語由」「論語術志」の両本を展示し、これらの著作により論語解釈論としての亀井学が完成され、出版後150年にして渋澤栄一の評価を受けて亀井の名前が全国に広がった歴史をわかりやすく展示する工夫を行った。

(2) [計画] 外国人(全体的に少ないが、その中では中国、韓国が多い)の入館者の展示内容理解促進に向け、英文キャプションの充実を図る。

[結果] 十分とは言いがたいものの、可能な限り英文キャプションの充実を図るための検討および作業を実施した。更なる充実を図るべく、引き続き尽力したい。

2) 企画

(1) [計画] 市指定史跡「能古古窯跡」の認知度を高めるための企画を検討する。また、亀井南冥没後200年の節目を迎えるにあたり、その関連事業の実施を検討する

[結果] 能古島の青年層を中心とした「若年家族の島への移住誘致促進活動」への協力の一環として、移住希望者に対して入館料を無料とし、能古古窯跡をはじめとする展示史跡の認知度向上を図った。また、一般来館者に対しても、博物館スタッフが可能な限り展示史跡の説明を行うことを通じて、能古古窯跡への関心が高まるように尽力した。

南冥没後200年関連事業としては、亀井南冥関連旧跡訪問バスツアーを企画したところ、募集人員以上の応募があり、10月25日および11月15日の2回に分けてツアーを実施した。

3) 広報

- (1) [計画] 広報誌「能古博物館だより」を年3回発行する。
[結果] 計画どおり、3回(72号、73号、74号)を発行した。
各号A4版、8~10頁、2500部~3500部の印刷。配布先は、能古島市民、一般市民向け広報ポスト、西区、早良区公民館、各メディア、自治体各部署、美術館、博物館、個人会員、個人・法人寄付者、その他記事関係者など。
- (2) [計画] 年間4回、各1000枚を目処にチラシを作成し、姪浜渡船場、能古島観光案内所、アイランドパーク等に備置する。
[結果] 計画どおり、年間4000枚の広報チラシ「能古博物館の紹介」を印刷・発行した。
姪浜渡船場、能古渡船場観光案内所、アイランドパーク等に配布・備置した。内容は、博物館の概要案内、期間限定展示案内、通し開館や年末・冬季休館と開館日の案内等。
- (3) [計画] ホームページの更新・改善を図り、インターネット上の広報活動の充実を図る。
[結果] ホームページを通じて企画展示内容等をタイムリーに伝えることができるよう、ホームページのメンテナンスを的的に実施した。
- (4) [計画] 団体客増加を図るため、少年、高校、婦人グループ、中高年歩こう会、句会、勉強会等の利用促進に向け、旅行会社、行政部局への働きかけを行う。
[結果] 福岡市の「市政だより」に当館訪問記事を掲載してもらうなど、当館の認知度向上および団体客増加に向けた取り組みを行った。中長期的な視野をもって、各方面への働きかけを継続的に実施していきたい。
- (5) [計画] アイランドパーク、観光案内所、他各施設の島内各施設との連携を強化する。
[結果] 島内各施設に広報チラシを備置し、またそれぞれの施設の担当者と情報交換を行うなどして、人的関係の強化および連携充実を図った。

4) 経営基盤の充実

[計画] 公益財団法人にふさわしい展示内容、経営基盤の充実に向けて、入館料、寄附金等の収入財源の確保を重点課題として活動する。

[結果] 各種の取り組みが功を奏し、平成 26 年度の入館者数は 2099 名となり、平成 25 年度入館者数 1592 名と比較して 31.8%増という大幅な増加となった。

また、平成 26 年度の有料入館者数は 1115 名で、平成 25 年度 950 名から 17.3%増加となったが、団体割引の適用が増加したことにより、平成 26 年度の 1 名あたり入館料は 310 円(平成 25 年度 357 円)と前年比 13.1%減となり、入館料収入はほとんど増加しなかった。

しかし、入館者数が着実に増加して能古博物館の認知度が高まることは非常に重要であるため、入館者数増加を重視する現在の運営方針を継続する予定である。

寄附金については、前年度比、予算比、ともにマイナスという低調な結果に終わったが、引き続き当法人の支援を各方面に求めて行きたい。

このように収入予算が目標を達成できなかったことにより、正味財産増減計算書は赤字決算となった。減価償却費を含まない経常収支ベースではほぼ収支均衡している状態であり当面の資金繰りに問題は無いが、減価償却費相当額の収入を確保して将来投資の財源を留保していくことが今後の課題である。

2 会議開催状況

1) 評議員会

開催日 : 平成26年5月27日

内 容 : 平成25年度計算書類及び附属明細 (承認事項)
平成25年度財産目録 (承認事項)
平成25年度事業報告及び附属明細 (報告事項)

開催日 : 平成27年3月29日

内 容 : 平成27年度事業計画書及び収支予算書 (承認事項)
平成27年度資金調達及び設備投資の見込み (承認事項)

2) 理事会

開催日 : 平成26年5月12日

内 容 : 平成25年度事業報告及び附属明細 (承認事項)
平成25年度計算書類及び附属明細 (承認事項)
平成25年度財産目録 (承認事項)
評議員会招集 (承認事項)
平成25年度監査報告書 (報告事項)

開催日 : 平成27年3月25日

内 容 : 平成27年度事業計画書及び収支予算書 (承認事項)
平成27年度資金調達及び設備投資の見込み (承認事項)
評議員会招集 (承認事項)

3 役員等の状況

平成27年3月31日現在

役名	氏名	担当職務
理事	原寛	理事長
理事	西牟田耕治	常務理事
理事	柏木重人	理事
理事	黒田康介	理事
監事	牧健太郎	監事
評議員	原祐一	評議員
評議員	塚本昭二	評議員
評議員	有吉通泰	評議員
評議員	江頭啓介	評議員

事業報告の附属明細書

事業報告書に記載の他、該当無し。